

令和7年度版「学力向上ポータルフォリオ(学校版)」【土合中】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	知識・技能の観点では、教科によって生徒の基礎的な内容の定着状況にばらつきが見られ、学習内容の確実な理解に課題が見られた。また、授業内で提示された課題や家庭学習への取組状況にも差があり、学習内容を定着させるための生徒の継続的な学習習慣の形成が十分とはいえない状況がみられる。 次年度に向けては、知識や技能の定着を図るため、授業における振り返りや確認問題などを活用し、学習内容を生徒が繰り返し活用する場を教員が設定していく。また、授業内での課題や家庭学習の取組状況を丁寧に把握し、継続的に学習に取り組む態度の育成を図り、生徒が主体的に学習に向かうことができるような授業づくりを進める。さらに、教科間での指導の工夫を共有しながら、知識・技能の確実な定着を目指した指導の工夫を図っていく。
思考・判断・表現	思考・判断・表現の観点においては、授業内における言語活動や対話活動の充実が課題が見られ、生徒が自分の考えを整理し表現する機会が少なかった。また、「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問に対し、否定的な回答が一定数みられ、教師の学習内容と実生活や社会との関連を実感できる授業改善が求められる。 次年度に向けては、授業の中で自分の考えを説明したり、互いの意見を交流したりする言語活動や対話活動を意図的に授業内で設定し、生徒が根拠をもとに考えを表現する学習場面の充実を図る。また、学習内容が日常生活や社会とどのように結びついているかを意識した課題設定や授業展開を通じ、生徒が学習の意義を実感しながら主体的に考え、表現する力につなげていく。

今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <学習上の課題> ・学力の基礎となる知識・技能の定着において、生徒によって定着度のばらつきがみられる。 ・自主的に学習習慣を身につけている生徒が少ない。 <指導上の課題> ・学習を振り返る時間を確保する必要がある。 ・生徒が主体的に学習に向かう姿勢を育成する必要がある。 	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ・「スタディサプリ」「ドリルパーク」などのICT学習ツールを積極的に活用、推察し、漢字や基本的な計算などの知識・技能を学習者自身のレベルに合わせて取り組む【単元毎の実施】。 ・定期的に課題を出し、生徒の学習習慣の定着を図る【単元毎の実施】。 ・スクールタッシュボードの「授業の振り返り」を活用し、生徒は自身で学びの自己調整、教師は授業改善を図る【通年】。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <学習上の課題> ・得た知識を自分で理解し、言語化することについて課題がみられる。 ・思考力を中心とする応用問題に苦手意識をもっている。 <指導上の課題> ・基礎的な知識・技能を定着する授業展開が中心となっており、思考力や表現力を育成する活動や時間をより増やす必要がある。 	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ・深い学びの実現に向け、「まとめ・表現」に重きをおき、身につけた知識や技能を基に、思考したり表現したりする活動を設定する【両向実施】。 ・問題発見・解決能力「情報活用能力」の育成を2つを柱とし、生徒の資質・能力の向上を目指す。これを達成するために、思考力や表現力、探究心を養う授業展開、授業改善を行う。また、校内のデジタル基盤を整備し、生徒の学習機会においてICTを積極的に活用し、個別最適な学びの実現を目指す【通年】。

全国学力・学習状況調査
<小6・中3>(4月～5月)

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	どの教科においても学習者の基礎的・基本的な知識及び技能が身につけている。「ICT学習ツールを活用して情報収集・整理分析・まとめ表現する学習をすることができたか」の質問事項に対し、本校では約90%の生徒が肯定的な回答を示した。ICT学習ツールの積極的な活用が知識・技能の育成に尽力することがわかる。また、授業内で出された宿題などの取組状況については改善が見込まれたものの、引き続き課題があり、学習者の主体性を十分に引き出すまでには至らなかった。
思考・判断・表現	B	生徒の学習機会において、生成AIの活用やICT学習ソフトを積極的に活用し、「情報活用能力」の育成を図り、それとともに思考力・判断力を育成することができた。その一方で、言語活動や対話活動の充実が十分ではなく、表現力の育成につながる場面が限られていた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	理科は、総合尺度で全国を明確に上回る位置にあり、基礎用語や基本法則の計量的理解が十分である。また数学も全国平均を上回るが、基礎的・基本的な知識及び技能の定着は生徒によって差がある。国語はほぼ全国平均であるが、知識を適切に活用する場面では課題がある。 基礎的・基本的な知識及び技能の定着については、教科によってばらつきがみられる。国語においては「言葉の特徴や使い方」、数学においては「図形」や「関数」などの基本的な概念の理解に課題があると考えられる。一方で、数学の「数と式」などでは、全国平均を上回っており、日常的な学習活動の中で培われた力が発揮されていると考える。
思考・判断・表現	国語の「読むこと」は全国平均を上回っており、文章の構造や筆者の意図を読み取る力がついていることがわかる。理科も総合的に良好で、観察・実験に基づく因果的説明を明確化できるとともに学力の向上が見込める。数学は全国を上回るが、解法選択の理由付けに伸びしろがある。 国語の「話す・聞くこと」、「書くこと」で全国超えの一方、複数資料の統合や根拠明示を要する読解、自身の考えを表現したり他者から聞いた内容を言語化したりすることが今後の課題となる。数学においては、「関数」や「データの活用」で問題解決の過程を論理的に説明する力の育成が求められる。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語、数学は知識・技能において市平均よりも高く、十分に身につけている。特に国語では古典や書写などの「我が国の言語文化に関する事項」、数学では基本法則の計量的理解の「数と式」、「データの活用」の知識・技能が十分に定着していることがわかる。 一方で、社会と理科は知識・技能において市平均と比べてさらなる充実が求められる。特に社会では歴史分野、理科ではすべての分野・領域においての基礎的な知識の定着が求められる。社会の地理分野では、学年によって習熟度に偏りがあるものの、概ねの地理的事実や仕組み、資料を読み取る力が身につけている。
思考・判断・表現	数学、社会は思考力・判断力・表現力が身につけていることがわかる。特に数学では数学的に考え、解決方法を選び、その考えを説明する力が身につけており、社会では、資料や事実をもとに考え、関連付け、説明する力が身につけている。 一方で、国語、理科の思考力・判断力・表現力においては課題が見られる。国語においては特に「書くこと」に課題が見られ、自分の考えを整理し、文章として構成する経験が不足していると考えられる。理科においては、資料を基に考察する問題では一定の力が見られる一方で、基礎的な用語や概念の理解に課題があると考えられる。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	学習者の基礎的・基本的な知識及び技能を習得させるために、ICT学習ツールを積極的に活用している。また学習者に学びを振り返らせることで、学習者は自身の学びの自己調整を図ることができている。その一方、授業内で出された宿題などの取組状況には引き続き課題があり、学習者の主体的に学習に向かう姿勢の育成は引き続き継続していく必要がある。	変更なし
思考・判断・表現	B	各授業において学習者が身につけた知識や技能を基に、思考・表現する場面を多く設定することができた。課題設定する時間も設定したことで「問題発見・解決能力」も育成できている。また生徒の学習機会において、生成AIの活用やICT学習ソフトを積極的に活用し、「情報活用能力」の育成できている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)